



2021全国現業統一闘争・支部要求

2021全国現業統一闘争・支部要求

- 2021全国現業統一闘争・支部要求を行った。各分会の加筆修正や申入書の確認を行い、最終的に左記のとおり9月6日(月)に環境局長に申し入れを行った。
- 1、現業業務の直営による行政確立について
- 2、現業労働者の権利確立について
- 3、欠員補充、人員・機材の確保の要求について
- 4、現業労働者とフルタイム再任用・短時間再任用及び会計年度職員の賃金制度や待遇等に関する要求について
- 5、「環境保全・資源循環」の環境自治体づくりに関する要求について
- 6、災害対策にかかわる要求について
- 7、ダイオキシン類対策に関する要求について
- 8、アスベスト対策に関する要求について
- 9、放射線対策に関する要求について
- 10、職場における安全衛生活動について
- 11、職場における健康づくり対策の具
- 12、職員の権利確立のため諸施策の積極的な推進、及び、職員の意見を十分聞き入れた上で権利行使が行いやすい職場環境の整備について
- 13、あらゆる差別撤廃のための施策について
- 14、分会要求については、誠意ある回答を示すこと

申し入れの様子



川崎市職員労働組合
清掃支部
発行

川崎市川崎区東田町5-1
市労連会館4階
電話 044(222)5906
発行責任者 渋谷 勝美
編集責任者 清水 麻之



清掃支部ホームページ
QRコード



直営をささげる

加瀬分会

飯塚 墨(いづか るい)

仲間達 (365)

- ① 年齢..
- ② 入庁年度..
- ③ 分会役..
- ④ 職種..
- ⑤ 業務内容..
- ⑥

今回紹介する組合員は、飯塚墨さんです。

飯塚さんは大学で情報通信工学を専攻し、父親が公務員であったことから、公務員を目指し川崎市に入庁今回紹介する組合員は、飯塚墨さんです。

飯塚さんは大学で情報通信工学を専攻し、父親が公務員であったことから、公務員を目指し川崎市に入庁しました。

これまで橋、堤根、浮島と焼却施設の現場を渡り、整備、運転操作、委託工事監督などさまざまな業務を行ってきました。

昨年4月加瀬に異動し、中継輸送施設の維持管理に技術管理者として職務

を行っています。

一方プライベートでは、テレビで見たナリタブライアンへの走りに魅了され、今では7頭ほど一口馬主に出資し、応援の日々を過ごしています。

また3月に結婚し、37年住んだ横須賀から市内に引越し、5月から飼い始めた犬の世話や家事に四苦八苦しています。

組合については、昨今行財政改革に伴い厳しい状況が続いておりますが、桶処理センター竣工に伴い、搬入、処理動線が変わり、加瀬の職員数減、車両減が想定されるため、組合員への説明をお願いしたいと思っています。

一番左が私。ヴェスターヴァルト 19年8月18日2歳末勝利口取り時。

名は小鉄。柴犬1歳。

隣にいる仲間を想つ

〜在日外国人と日本人は国籍・

民族を超えていけるか〜

第35回

林慶一

●期待しているのだろうか
〜社会人二年目の受難 その3

四月の人事異動でヨンスは、当初の内示とは違うスキャナー課に配属されてしまいました。ヨンスが担当するはずだったシステム課のメインオペレータは同期のヤマトに決まり、当人であるヤマトから、今回の人事は社長が決めたものだった、と知らされました。一年前の配属の時と今回の人事異動は社長の一声で覆されてしまったのです。会社として最適な方法をとったからこんな人事になったのか、それとも他の理由からなのか：社長に聞いてみたと思います。ただ、入社二年目のヨンスが社長と直接話ができる可能性はゼロに近いです。ここは足立さんに聞いてみるしかないと思えました。まさに

「困ったときの足立さん」の登場です。

その日、足立さんはヨンスに、終業後、駅前中華料理店に来るように言いました。仕事を早めに切り上げ、その店に行ってみました。すると、足立さんのほかに、この四月からシステム課のメインオペレータに配属されたヤマトと、三月いっぱい退職し、実家の電気屋を継いだ大林さんまでいました。意外といえは意外、必然といえは必然的に集まったメンバーでした。

ヨンスはまず大林さんに「太りましたね。大林さん」と不自然なあいさつをしました。すると大林さんは一瞬間をおいて爆笑し、まあ今までに比べたらヒマだしな、と答え、でも自営業はツライよ、と嘆き、まず飲んで食おう、とみんなで乾杯しました。

しばらく食べて飲んで、世間話をした後、足立さんが話しはじめました。例の内示の日のあと足立さんは社長に呼ばれたそうです。そして、ヨンスの在留資格を確かめるよう指示を受けた、と話してくれました。

ヨンスの国籍は韓国ですが、日本で暮らすための在留資格については自分でも詳しく知りませんでした。自分が持っている外国人登録証（現在は廃止され、在留カードまたは特別永住者証明書に変わっている）の在留資格の欄には「特別永住」と記されています。「特別永住」とは旧植民地出身の朝鮮人や台湾人とその子孫が日本で暮らす上での在留資格の種類で、1990年代ごろの特別永住者の数は全国で六十万人ほどでした。（現在はその半数の三十万人）ヨンスは面接の時、在留資格については聞かれませんでした。入社後、社会保険に入るため、住民票の提出が求められていました。ヨンスは住民票を持っていないだったので（当時は外国籍住民には住民票が

なかった）代わりに外国人登録済証明書を住民票の代わりとして提出し、手続きをしました。足立さんは社長に、ヨンスの在留資格について、日本で働くのに何の問題もない在留資格です、と報告しました。社長はいい顔を見せましたが、社長のいい顔を

人事異動が正式に決まる直前の役員会議で今回の人事を覆しました。理由は「事業方針のためである」と言ったそうです。

これを聞いてヨンスはより一層考え込んでしまいました。「事業方針って何だ？」大林さんとヤマトは、「そんなのは納得いかない！」「よし、直談判だ！」と自分のことのように怒りをあらわにしました。ヨンスはそれをみて少し元気が出てきました。自分のことを気にかけてくれている人がいることが何よりうれしかったのです。ここにいるみんなが知恵を絞れば、直談判は無理だとしても、うまく事が進むような気がしました。（つづく）

分会だより
川崎分会
No.208

みなさんこんにちは川崎分会です。

残暑がとて厳しく、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各分会のみなさんも大変ご苦労されていると思います。

われわれ川崎分会も所・分会一丸となって新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、職場クラスターを絶対におこさないために様々な対策をとっています。職場環境のなかで密状態

をつくらないために班ミーティング場所を1階と3階に分けて行ったり、昼休憩時間に使用していない会議室等を開放してできるだけ組合員の安全が保てるように取り組みを進めています。

組合活動も制限されている状況で分会行事なども中止や延期を余儀なくされていますが、今の現状が好転し、世の中が通常の生活が取り戻されたために色々な準備を進めていきたいと考えています。大変な状況にありますが、各分会の皆さんとともに頑張っていきたいと思えます。